

第51回 一橋植樹会 総会

2024年(令和6年)5月18日(土)



剪定作業した白梅が満開となりました

総会議案

- | | |
|-------|----------------------------|
| 第1号議案 | 2023年度(令和5年度)事業報告並びに決算承認の件 |
| 第2号議案 | 役員改選承認の件 |
| 第3号議案 | 2024年度(令和6年度)事業計画並びに予算承認の件 |

第1号議案 2023年度(令和5年度)事業報告

2023年度は、一橋植樹会にとっては設立後50年、新生植樹会発足後20年の節目となる年であり、また新型コロナウイルス感染症により2020年2月を最後に中止を余儀なくされていた定例活動を再開した再スタートの年でもありました。それまでの約3年間は基本的には会員有志の自主活動を主体に活動を行ってまいりましたが、漸く学生参加のある定期的活動の実施というコロナ禍以前の状況に復することができました。

さて、本年度は、延べで学生1,166名、教職員27名、卒業生859名、合計2,052名が作業に参加いたしました。作業は、基本的に、植物の生命活動が活発になる5月からそれが衰える11月頃までは、草刈りやツル植物、灌木類の除伐を中心に、またそれ以外の時期には樹木の剪定、枯木や不要木の処理等要管理木への対応や景観維持のための作業を主体に行ってまいりました。夏場の作業は、地球温暖化の影響もあり、繁茂する雑草やツル植物などの格闘であり、ことに暑かった本年度は例年を大きく凌ぐ量の植物の生長が見られ、作業に追われた一年でした。

このように比較的厳しい作業環境の中、会員によるほぼ1週間に一度の臨時作業と月に一度の定例作業を組み合わせながら、また体育会運動部など学生サークルとは共同作業という形でそれぞれの活動環境の整備作業を企画、実施した結果、作業の効率性の向上を見ることができました。また、作業においても、作業機器の取扱に習熟する一方、しっかりとメンテナンスも行い、作業の安全にも注意しつつ、作業技術の向上と効率化に努めてまいりました。

学内の緑の状況を見ますと、コナラなど武蔵野の森を象徴する樹木の太径木化とナラ枯れ病などによる被害、多くのサクラに見られる樹木の老齢化と衰弱など学内の緑の質的な変化が目立ち、それに対する長期的な視点に基づく対応が求められています。また、多くの皆様が眼にするように、オオブタクサ、アメリカオニアザミやワルナスビ等の厄介な外来植物が大量に侵入してきています。クズやヤブカラシなどのツル植物も駆除に苦慮します。これらの植物には、その性質や生活サイクルを理解しつつ、より効果的に対処してまいりました。



ひょうたん池清掃作業



中央庭園での草取り作業

学内の緑の抱える問題に有効に対処するためには、大学との間の日常的な深度のあるコミュニケーションが大切です。大学との間では、四半期に一度のワーキングチームミーティング(WTミーティング)が開催され、そこで学内の緑に関する諸々の問題を協議し、日常的な整備作業においても相互補完できる態勢作りに努めております。

最後になりますが、長年手を入れることが難しかったひょうたん池の清掃作業を、植樹会の記念事業として、大学と協力して実施しました。大学との連携の大切さを実感する象徴的な事例であり、また会員の皆様のご厚いご支援の賜物であると感謝申し上げる次第です。

1. ボランティア作業

(1) 活動実績

冒頭で述べましたように、2020年2月を最後に中止していた定例作業を、2023年5月に再開し、参加者は100名を数えました。定例作業、学生サークルとの共同作業、卒業生中心の臨時作業が実施できる環境が整い、キャンパス整備への多様な対応が可能となりました。

本年度の特徴として、春以降の高温傾向をうけて、草本やツル植物の繁茂が著しく、それへの対処に追われました。また、前述のひょうたん池の清掃作業に合わせて、掛り木の伐採や枝落とし、植込みの剪定など周辺整備を行いました。

作業の実施状況は、定例作業を10回、学生サークルとの共同作業(KODAIRA祭準備作業、一橋祭準備作業を含む。)を13回、会員有志による臨時作業を37回行い、合計回数60回、参加者数は延べ2,052名となり、2022年度の55回、1,078名と比較すると、回数、延人数ともに増加しました。(因みにコロナ禍前の2019年度における作業参加者数は延



定例作業



共同作業

べで1,917名でした。)これは、定例作業を再開したこと、また、後述のように共同作業に伴う学生の参加者数が増加したことによるものです。

作業実施に際しては、短時間で作業範囲の広い定例作業と、少人数で機械類を駆使できる臨時作業との連携を図り、作業効率の向上にも努めつつ、キャンパス内の植物の特性や活動サイクルなどを考慮しながら作業を行いました。特に本年度は前述のとおり春以降の高温傾向のなか植物の繁茂が著しく、5月から12月の初旬頃までは下草刈り作業を、また12月下旬以降の生命活動が低調な時期には、樹木の剪定や植込みの刈込み、要管理木などへの対応、灌木やササの除去などを主体に作業を行いました。

作業にあたっては、大学との連携を密にし、大学が行う作業と当会が行う作業と相互補完しながら、キャンパス全体として緑の整備の実現を目指しました。また、本年度、大学としてナラ枯れ・立ち枯れの枯損木など要管理木の太径木数十本を伐採しているなか、小径木などは当会で対応してきました。

総体としては、新たに手がけた作業を含め、ほぼ満足のいく状態でキャンパス内の整備を行うことができました。

また、2022年度に引き続き、学生サークルとの共同作業を通じて学生達の作業参加が格段に増えました。学生達個々人の自分達の学び舎の環境整備の大切さへの認識や自主的活動への意欲が強まっていると思われます。共同作業を実施したサークルは、野球部、ハンドボール部、陸上競技部、ラグビー部、男・女ラクロス部、弓道部、フィールドホッケー部および硬式テニス部ならびに一橋祭運営委員会およびKODAIRA祭実行委員会です。

作業の詳細に関しては植樹会ホームページから「作業班ホームページ」をご覧ください。この中の「作業計画と結果」をクリックして頂きますと各月の作業の内容が豊富な写真付きで説明されています。是非ご覧になって下さい。

(2) 休日作業

休日作業は、より多くの植樹会会員による作業参加を目的に作業日を土曜日に設定している定例作業のひとつで、本年度は、7月15日(土)と10月14日(土)に実施しました。通常の定例作業には参加が難しい、会員や教職員の方にも

参加いただきました。

(3) 植樹作業

大学と協力し枯損木や危険木などの除伐を行う一方、伐採跡地への植樹などを行いながら、大学構内の自然の新陳代謝と世代交代を図っていくことが求められます。そのために、アカマツについては世代交代に備えて「アカマツ基金」の活用を継続しています。また、ナラ枯れ病に冒され、伐採を余儀なくされたコナラやクスギなどの伐採跡地への植樹も検討が必要になっています。

本年度は植樹の具体的実施には至りませんでした。将来の植樹に備え、コナラの実生幼木を採集し養生することを試みに行いました。

(4) 「国立キャンパス緑地基本計画レビュー」に沿った作業

「国立キャンパス緑地基本計画レビュー」の『第二次緑地基本計画』の円滑な実行のために、大学施設課との間で四半期毎に実施する、実務レベルのWTミーティングを中心にして、適宜協議を行っています。

WTミーティングでは、基本的な作業方針、年間計画に基づく月次の作業計画と進捗状況、危機管理や景観などの観点から管理を要する「要管理木」に対する方針、大学構内の森の老齢化とその円滑な世代交代、繁茂するオオブタクサなど外来植物の状況、作業器具や作業上の安全管理などについて、認識の共有化が図られています。

課題の一つである要管理木については、8月にキャンパス内を巡見し、対象樹木を再確認しました。その内容を見直しつつ優先順位をつけ、前述のとおり大学と当会が分担して対応しています。

(5) 作業環境・効率の改善、新規購入の用具・備品その他

作業用用具や備品については、作業の安全第一を旨とし、少人数でも効率的に作業を行うことが出来るよう、また作業に伴い発生する作業音などにも配慮しつつ整備してきました。そのために、機器類の保守や点検、修理や調整を必要に応じて行う一方、手作業で使う道具についても使用後のクリーニングなど管理の徹底を図っており、必要な機器・機材・備品は整っています。

本年度に装備された新たな器具としては、エンジン式穴掘り機1台と高枝切りノコギリ1本を購入しました。

(6) 作業後交流会

作業後交流会は、卒業生と学生らとの歓談や交流の場として設けられた大切な機会です。7月実施の定例作業から再開し、短時間ではあるものの毎回意義ある会となっています。

2. 学生の主体的活動の推進

本年度は定例作業の再開に伴い、学生理事の活動もほぼコロナ禍以前に戻り、定例作業の学生参加の取りまとめや交流会の準備と片付け、また再開後2回目となる一橋祭での「森のクラフト教室」の準備や運営などに積極的に取り組みました。



森のクラフト教室

3. 組織強化活動

(1) 会員の状況

植樹会の財政基盤の安定・強化と活動の活発化を図るため、新規会員の増強は極めて重要です。本年度は新型コロナウイルス感染症の問題もほぼ収束したことから4年ぶりに、入学・卒業の周年記念大会が復活し、新規会員獲得の主要機会である周年大会での新規会員獲得活動を実施することが出来ました。4回実施し、合計20名の新規会員を獲得することが出来ました。一方で個人会員は物故者26名、自主退会者が19名、見做し退会者（3年間連続年会費不払い）が12名おり退会者の合計は57名となり、新規会員合計28名を加えても差し引きで29名減少し1,229名となりました。

(2) 組織強化

復活した周年大会での会員獲得活動に関しては、大会参加者の年齢が70歳未満の方の勧誘に注力しています。また学生理事の勧誘活動参加が大変有効であることを確認でき、今後の勧誘活動の軸となるものと考えます。

年会費不払いによる「見做し退会」は残念ながら常態化しており、本年度もその数を減らすべく2回にわたり年会費納付のお願いを出状しましたが12名がその対象になりました。

4. 広報活動

(1) 植樹会のホームページ

ホームページの体裁を本年度4月から全面的に改訂し、定例作業のご案内などの「お知らせ」を広報班で直接掲載することにより、毎月のトピックスや各種情報とともにタイムリーに提供できるようになりました。

(2) 如水会々報の「植樹会通信」

全国の如水会会員に対し、活動の中心となる作業の具体的な内容を紹介することで植樹会への理解を広げ、深めることに努めました。本年度から復活した定例作業を始め、季節ごとに変化する作業、また記念事業として行ったひょうたん池の清掃作業などの模様を掲載しました。また、作業参加者が高齢化、固定化していることに鑑み、記事末尾に初めてホームページのQRコードを掲載するなどして新たな作業参加者を積極的に求めていることを訴えました。

5. 寄附講義「緑の科学」

「緑の科学」は12年目を迎え、春夏学期に開講し、コロ



緑の科学の実習

ナ禍前の対面講義の形で全13回の講義を実施しました。数少ない自然科学系の講義で例年受講希望者が多く、本年度は募集定員60名に対して237名の応募があり、最終履修者数は58名でした。

講義は、キャンパスツアーや自然観察、植生管理、環境整備作業等の実体験もしつつ、多様なレベルの自然の保全の大切さを学生が理解、認識し、それを実践してくれることを目的にしたものです。内容は、ほぼ2022年度と同様に、「学内植生観察」、「緑と光の観測」、「緑と植物」、「植物の生態と進化」、「緑と鳥」、「武蔵野の雑木林と自然」、「山や森との人々のかかわり」、「植生管理と防火」などをテーマに行いました。

植樹会は、サポートとして、会長による講義や学内での自然観察や野外での活動を要する講義への支援を行いました。また、2023年の大学の「環境報告書」では、植樹会や緑の科学の役割が大学の行う環境対策とともに紹介されています。

6. キャンパス外活動

春と秋の学外研修が中心となります。本年度は春の研修は中止しましたが、秋の研修は顧問の福嶋司先生のご指導のもと、12月9日(土)に17名が参加して実施しました。八王子市内の加住丘陵（滝山丘陵）を中心に丘陵地の植生と平地の植生の違い、イロハモミジの紅葉真っ盛りの滝山丘陵の縦走路での紅葉（黄葉）の仕組みなどについて説明をお聞きしながら、滝山城の遺構や麓の圓通寺、少林寺を訪れこの地域の歴史の一端にも触れることができました。



学外研修

(1) 作業参加者の推移

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	対前年比増減
卒業生(一般)	642	661	859	198
教職員	0	0	27	27
学生	123	417	1,166	749
計	765	1,078	2,052	974
定例作業*	0	0	784	784
臨時作業	765	1,078	1,268	190

* 令和3年度～4年度は定例作業は実施されず、すべて臨時作業でした。

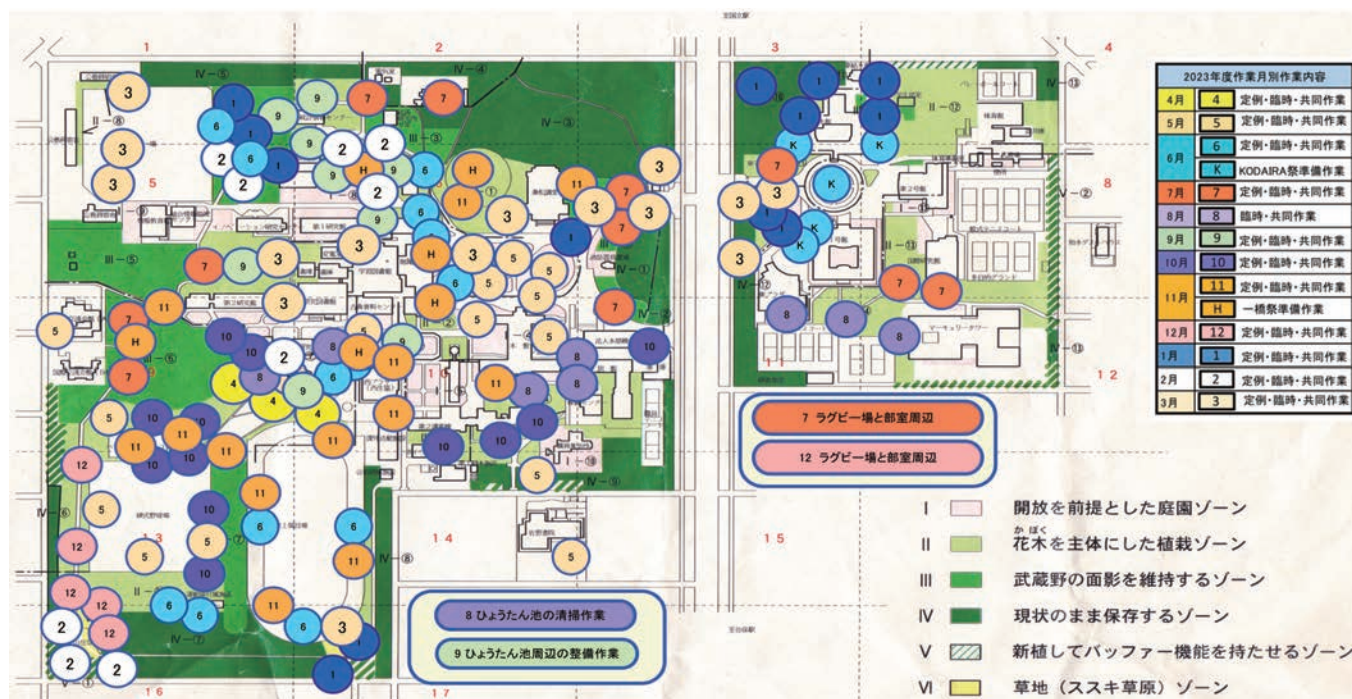
(2) 会員数の推移

会員種類	令和4年4月1日	令和5年4月1日	令和6年4月1日	対前年比増減
卒業生(一般)	1,312	1,258	1,229	-29
教員	43	43	43	0
職員	30	32	33	1
(小計)	1,385	1,333	1,305	-28
団体**	39	39	39	0
特別	3	2	2	0
学生	20	23	24	1
合計	1,447	1,397	1,370	-27

** 下記の団体が会員です。

如水会支部(多摩北、井の頭、国立・国分寺、横浜、房総、埼玉県東、埼玉県西、埼玉県南、埼玉県北、東京城北、八千代、川崎、八王子、茨城県南、船橋、富山、市川・浦安、千葉東葛、鎌倉・逗葉、立川、大阪、静岡、名古屋、栃木、町田相模、京都、香川)、一橋大学ワンダーフォーゲル部OB/OG会、一橋大学消費生活協同組合、一球会(硬式野球部)、新三木会、振橋会(応援部)、一橋操道会(体操部)、一橋陸上競技倶楽部、昭和31年会、昭和35年会、昭和42年会、昭和45年会、昭和48年会

2023年度(令和5年度)キャンパス全域作業エリアマップ



(千円未満：四捨五入)

収 支 計 算 書

令和5年度一般会計収支決算案および令和6年度予算案(単位：千円)

科目	令和4年度 実績	令和5年度			令和6年度 予算案
		決算案	予算	増減	
I. 前期繰越金	10,435	12,358	12,358	0	10,222
II. 収入の部					
1. 会費	3,624	3,474	3,473	1	3,378
(1) 団体普通会費収入	240	230	240	△ 10	240
(2) 個人普通会費収入	2,247	2,124	2,120	4	2,034
(3) 終身会員会計からの繰入	1,137	1,120	1,113	7	1,104
2. 如水会賛助金収入	500	500	500	0	500
3. 大学後援会からの収入				0	0
4. 特定収入	104	298	450	△ 152	450
(1) 総会会費収入		220	350	△ 130	350
(2) 寄附収入	100	78	100	△ 22	100
(3) その他の収入	4	0		0	0
5. 卒業記念植樹収入				0	0
収入合計	4,228	4,273	4,423	△ 150	4,328
III. 支出の部					
1. 学園祭賛助・参加費	336	484	500	△ 16	600
2. 組織強化(学生)		25	120	△ 95	160
3. 集会所備品			30	△ 30	30
4. 組織強化(一般)	22	4	160	△ 156	160
5. HPメンテナンス	242	1,052	1,200	△ 148	800
6. 広報用印刷物		227	230	△ 3	188
7. 総会費用	436	773	896	△ 123	945
8. 植樹費・管理費			250	△ 250	200
9. 学生植樹支援	10	65	220	△ 155	250
10. 作業道具・備品	496	239	350	△ 111	400
11. 保険料	71	100	103	△ 3	188
12. 会議費			10	△ 10	10
13. 作業後交流会		795	450	345	1,000
14. 事務・通信連絡費	74	73	72	1	110
15. 寄附講義運営費	228	461	300	161	484
16. 雑費	390	2,113	2,326	△ 213	596
支出合計	2,305	6,408	7,217	△ 809	6,121
IV. 次期繰越金	12,358	10,222	9,564	658	8,429

(注記)

- 一般会計決算案のHPメンテナンスにHP刷新費用682千円が含まれます。令和6年度もHP改訂費用455千円が含まれます。
- 一般会計決算案の作業後交流会は、令和5年度の7月から再開した費用です。コロナ禍で再開時期が明確でなく予算額を低めに見積りました。令和6年度は作業後交流会を1年を通じ開催する予定です。
- 一般会計決算案の雑費には、ひょうたん池清掃作業費1,790千円が含まれます。本作業は植樹会発足50周年、新生植樹会発足20周年の記念事業として実施したものです。本件以外の他の雑費の支出項目は、事務用品代、DC引落手数料、振込手数料等です。

令和5年度終身会員会計決算案および令和6年度予算案(単位：千円)

科目	令和4年度 実績	令和5年度			令和6年度 予算案
		決算案	予算	増減	
I. 前期繰越金(終身会費前受金)	10,452	10,235	10,235	0	10,084
II. 収入の部					
1. 会費	920	970	900	70	960
(1) 団体終身会費収入		100		100	0
(2) 個人終身会費収入	920	870	900	△ 30	960
収入合計	920	970	900	70	960
III. 支出の部					
1. 当年度の一般会計への繰入	1,137	1,120	1,113	7	1,104
(1) 団体(当年度入金額の10%)		10		10	0
(2) 個人(当年度入金額の10%)	92	87	90	△ 3	96
(3) 前期繰越金の10%	1,045	1,023	1,023	0	1,008
支出合計	1,137	1,120	1,113	7	1,104
IV. 次期繰越金(終身会費前受金)	10,235	10,084	10,022	62	9,940

令和5年度貸借対照表(令和6年3月末)(単位：千円)

一般会計		終身会員会計	
資産の部	負債の部	資産の部	負債の部
普通預金 10,222	普通会費前受金 0	普通預金 84	終身会費前受金 10,084
未収入金 0	繰越金 10,222	定期預金 10,000	
合計 10,222	合計 10,222	合計 10,084	合計 10,084

【謄本】

令和6年4月15日

監 査 報 告 書

一橋植樹会会長
飯塚 義則 殿

私どもは、一橋植樹会の令和5年4月1日から令和6年3月31日までの事業年度における理事の業務執行状況を監査するため、理事から業務の報告を聞くなど必要と認めた手続きを実施しました。

また、同事業年度の収支および財産の状況を検討するため、決算報告書、すなわち収支計算書および貸借対照表並びに関連書類について監査を行いました。

監査の結果、理事の業務の執行は適切であり、また、上記決算報告書は収支の状況を正しく表示しております。

一橋植樹会

監事 小池 良 (印)

監事 土方 周明 (印)

役職	氏名	卒業年・学部	役職	氏名	卒業年・学部
会長	飯塚 義則	(昭50経)	理事	岩城 悦子	(昭47商)
副会長	小山 修	(昭49法)	"	林 利治	(昭47経)
"	須藤 佳夫	(昭50商)	"	高橋 治夫	(昭48法)
"	村上 仁	(昭52法)	"	河村 進	(昭49経)
"	善宝 俊文	(昭53法)	"	高橋 忠明	(昭49商)
監事	小池 良	(昭52商)	"	山口 久基	(昭49法)
"	土方 周明	(昭52商)	"	秦 哲也	(昭50社)
顧問	福嶋 司	東京農工大・大学院名誉教授	"	木田 隆平	(昭50社)
"	田崎 宣義	名誉教授(昭46経)	"	井田 武雄	(昭51商)
"	筒井 泉雄	名誉教授	"	藤原 義章	(昭51商)
理事	石原 一子	(昭27学)	"	山田 務	(昭51経)
"	辻巻 孝	(昭34商)	"	地田 伸久	(昭52法)
"	岸田 加代	(昭35家)	"	田所 亮子	(昭63経)
"	土田 将夫	(昭37商)	"	望月 健一	(平8経)
"	旗野 友夫	(昭38経)	"	高橋 真吾	(平15商)
"	八藤 南洋	(昭40経)	"	大坂 孝之	(平18社)
"	関戸 康男	(昭40社)	"	兼井 博章	(平20商)
"	栗田 克彦	(昭41商)	"	沼尻 晃輔	(平21社)
"	樋口 文夫	(昭41法)	理事	中野 聡	学長(昭58法)
"	津田 正道	(昭42商)	"	蜂谷 豊彦	副学長(昭60経)
"	佐藤 征男	(昭42経)	"	大月 康弘	副学長(昭60経)
"	高場 恭幸	(昭43経)	"	山田 敦	副学長(昭61社)
"	五島 康晴	(昭44経)	"	林 大樹	名誉教授(昭54社)
"	保坂 証司	(昭44社)	理事	下間 康行	副学長・大学事務局長
"	田中 襄一	(昭45商)	"	小松 淳一	大学施設課長
"	樋浦 憲次	(昭45経)	"	濱谷 安輝護	大学総務課長
"	谷中 健治	(昭45社)	"	山田 剛己	研究科等事務部長
"	川崎 勝晤	(昭46経)	理事	江角 嘉一	(経4年)学生理事代表
"	金子 彰	(昭46法)	"	加藤 藍	(商4年)学生理事副代表
"	小槇 達男	(昭46法)	"	中村 俊哉	(経3年)学生理事副代表☆
"	小山 明	(昭46社)			
退任役員		長谷川 輝夫(昭39社)	田山 毅(平6経)		
		徳永 興亜(昭42商)			

一橋植樹会学生理事

学生理事	多田 裕章	(商4年)	学生理事	菅野 康太	(経3年)☆
"	野村 優	(商4年)	"	田中 徳力	(経3年)☆
"	菅野 元太	(経4年)	"	寺澤 篤哉	(商3年)☆
"	海野 秀介	(経4年)	"	千種 温人	(法3年)☆
"	滋野 皓介	(経4年)	"	尾崎 涼乃	(商3年)☆
"	湯本 悠一郎	(経4年)	"	片淵 弘大	(商3年)☆
"	中村 悠人	(法4年)	"	氣田 菜那	(商3年)☆
"	松寄 日向子	(法4年)	"	田部 望恵	(商3年)☆
"	福西 諒	(社4年)	"	篠崎 隼人	(法3年)☆
"	荷月 秀駿	(社4年)	"	篠崎 あずさ	(社3年)☆
"	大畑 徹平	(社3年)☆			
退任学生理事		野口 颯一朗(令6社)	鹿島 直人(令6商)		大木 鈴葉(令6社)
		藤田 倫太郎(令6社)	日原 瑛仁(令6商)		酒井 拓海(令6社)
		清水 結実(令6商)	渡邊 翔太(令6商)		石原 そよか(令6社)
		藪田 龍矢(令6商)	真次 優芽(令6経)		

第3号議案 2024年度(令和6年度)事業計画

基本方針

大学の森は、国立市は無論のこと、都市空間の中において、極めて貴重な自然空間です。2023年度には2020年2月を最後に途絶えていた定例作業が再開され、コロナ禍前の正常な活動に復することができました。結果、卒業生、教職員、学生が文字通り手を携えて学内の緑の保全と環境維持のための活動ができる状況が復活しました。2023年度は助走期間でしたが、本年度は以下の諸点に注力しつつ真にその成果が実現される年としたいと考えています。

1. 作業の実施については、8月を除く月一回の定例作業を軸に、KODAIRA 祭実行委員会、一橋祭運営委員会、体育会運動部との共同作業を継続、発展させてまいります。また、従来から実施している植樹会有志による週次作業（従来の臨時作業を名称変更）を継続し、これらの作業との連携を強化し、作業上の安全に細心の注意を払いつつ、効果的な作業を実施してまいります。
2. 学内の緑の環境の変化への対応が必要です。学内の緑は、人の手により作られ、護られてきたため、不断に人の手を入れることが大切です。老齢期を迎えた樹木はやがて衰え、人の手が入らない森は遷移が進むか高齢化していきます。また、外来植物の侵入のように新しい植物も入ってきます。気候温暖化の影響もあります。科学的アプローチも必要です。学内に生育する植物の性格やライフサイクルを理解し、大学とも協議をしながら、これらの問題に中長期的視点に立って対処していきます。
3. 学内の樹木の円滑な世代交代への対応です。学内の樹木は老齢化し、マツ枯れ病やナラ枯れ病に冒されたものの、枯死するものが急激に増えています。これらの樹木は伐採後にそこに適した樹木を植え替えて行く必要があります。将来を見据えた植樹計画を大学とともに検討していきます。
4. 学生の植樹会活動への積極的参加を促進します。ともに活動する学生達には作業やその他の機会を通じ、学内の緑の大切さを理解してもらい、植樹会の活動に主体的に参加してもらうように努めます。
5. 学内の緑や環境維持のためには、大学との深度のあるコミュニケーションが不可欠です。現行のWTミーティングや諸々の機会をとらえ、直面する諸々の問題の解決や作業の効率的な運営のための協議を行い、具体的提案や提言を含めた付加価値のある活動に努めます。
6. ホームページや卒業生による周年大会などの機会を通じた植樹会活動の外部への情報発信を心がけ、それを多くの皆様に理解いただき、新規加入、実作業への参加を含めた支援をいただくように努めます。そのためのホームページの改良も一つの課題です。
7. 2025年は「国立キャンパス緑地基本計画」のレビュー

の年になります。そのための準備を本年度は開始します。学内の大径木レビューを皮切りに、キャンパス内の緑の状況を確認し、過去の作業経験なども踏まえ、今までの活動を振り返る一方、大学とともに将来に向かっての学内の緑管理のための処方箋作りの準備を行います。

具体的活動計画

1. ボランティア作業

「国立100年の森」の実現を目指して、キャンパスの自然の保全と継承のため、「第二次緑地基本計画」に即して着実に活動していきます。そのために、直面する諸課題について、WTミーティングなどを通じて大学と協議しながら対処していきます。

継続的に対応すべき課題として、大学構内の森の円滑な世代交代のための老齢木や衰弱木への対応と適正な樹木の植樹、不要な樹木や危険木など「要管理木」への対応、夏期に繁茂する雑草やツル植物への対応、教育・研究の場としてのキャンパスの景観の向上などが挙げられます。また、過密に植えられているツツジの植込みやツバキ、キンモクセイなどの適切な剪定も必要です。

このような課題に対して次のように対処していきます。

- (1) 作業実施に当たっては、作業区域の植物の特性やライフサイクルに応じた作業時期、作業方法を選択して行います。その際、多くの会員が参加し短時間で行う定例作業と、少人数かつ機動的に行う週次作業との効率的連携を図ります。
- (2) 枯損木・危険木・不要木などの要管理木について、大学が進める伐採作業と連携して可能な範囲で対応するとともに、跡地への植栽を行いません。マツ枯れ病対策として、大学が行う樹幹注入を「アカマツ基金」を活用して支援します。また、アカマツの後継樹の植栽についても「アカマツ基金」の活用を検討します。
- (3) オオブタクサ、ワルナスビその他外来性植物や他の植物に害を及ぼすツル性植物について、繁茂を極力抑制するために状況に見合った管理を行います。そのため、それぞれの植物の特性を踏まえた作業時期、作業方法を選択します。



定例作業



樹木調査

- (4) 作業参加者が、自らがキャンパスの緑の保全・育成に関与しているという活動への満足感を高めてもらえるように、作業内容を工夫していきます。また、学生サークルとの共同作業については、要望に応じて適宜対応していきます。
- (5) 作業は安全を第一とします。そのため、機器・機材・備品の充実を図ります。また、作業技能の向上に努めるとともに、機器類の適切な保守点検を行い、作業の安全と効率の向上に努めます。なお、定例作業においては、危険予防のため極力機器類は使用しないことといたします。

2. 学生の主体的活動の推進

定例作業での学生参加者の安定化や拡大に向けて、学生理事と対策を検討、実施いたします。また、KODAIRA祭での「森のクラフト教室」の再開や、活動内容の見直しと新たな企画について、学生理事が主体的・積極的に検討と取組を進められるよう支援して参ります。



お花畑での植込み作業

3. 組織強化活動

個人会員の新規入会勧誘活動は、周年大会の場が最も有効であり、2024年度も注力します。また定例作業、週次作業に参加して汗を流す植樹会員の数を増やすことが大きな課題であるため、大学に近いエリアに所在する如水会支部での会員勧誘活動を強化し、実際の作業に参加できる会員の獲得に励みます。

4. 広報活動

(1) 植樹会のホームページ

ホーム画面や各メニュー画面の構成の簡素化や、配置、掲載表示などを見直し、閲覧者に一層使い勝手の良いホームページへの改善に取り組みます。

(2) 如水会々報「植樹会通信」

引き続き作業活動の報告を主体としつつ、如水会会員に対して植樹会活動への理解、共感をより一層広げかつ深めてもらえるよう、またこれにより新規会員の増大、特に作業参加者の増加に繋げることを従来以上に意識し、テーマ選びや記事内容の編集に努めていきます。

5. 寄附講義「緑の科学」

本年度も「緑の科学」は春夏学期に開講し、講義日は火曜日から金曜日に変更になりますが、講義内容の実質的な変更は行いません。植樹会は、植樹会会員による実習指導の支援や自然と日本人のかかわりについての講義などを通して、協力をしてまいります。

6. キャンパス外活動

本年度も会員の植樹会活動に関する知識と意識向上のために学外研修を実施します。実施場所は近隣の自然や植生の豊かな研修の実を得られる場所を選んで行います。

2024年度（令和6年度）一橋植樹会幹事会組織（案）

会 長 飯塚理事

1. 企画・統括班 須藤理事（副会長・総務・周年大会担当）

井田理事（経理担当）、河村理事（会員管理）、
飯塚理事（兼務 寄附講義）

担当業務：事業計画立案、予算・決算、幹事会、総会、大学・如水会折衝窓口、組織強化、会員増強、会費管理、会員名簿の作成、寄附講義（緑の科学）、保険（傷害、賠償）に関する事項。

2. 学生班 村上理事（副会長）

担当業務：学生会員の勧誘、作業参加促進、交流会支援、KODAIRA祭・一橋祭への参加（森のクラフト教室支援）。

3. 広報班 小山理事（副会長）

村上理事（兼任 HPの更新および案内）

担当業務：HPの更新および案内、如水会々報への投稿、小冊子・チラシの作製。

4. 作業班 善宝理事（副会長）

村上理事（兼任 交流会担当）、山口理事、木田理事、藤原理事

担当業務：作業の企画、案内と実施、用具備品の購入・管理、安全対策、交流会の準備と実行、植樹計画の立案。

アカマツ基金の現状報告

校歌にも歌われて、一橋大学のシンボルとも言うべき大学構内のアカマツは、高齢化とマツ枯れ病の蔓延の結果大きく本数を減少させています。大学でも以前からアカマツの幹に対して薬剤の樹幹注入を施してまいりました。植樹会でも当初は一般予算から費用の一部を負担して協力して参りましたが、マツ枯れ対策に本格的に取り組むとともに、失われたアカマツを補うための補植を積極的に行うため、アカマツ基金を設立して広く募金の呼び掛けを行っています。

2017年度に呼び水として如水会より200万円の寄付を頂き、その後は幅広い層からの募金を頂戴し、基金の累計額は1,054万円を超えるまでになりました。2017年度から5年計画で樹幹注入を計画的に進めて来ましたが、グリーンガードNEOという現在使用している薬剤の効果持続期間は7年であり、以前に実施したアカマツに対して再度樹幹注入する必要性が生じています。2022年度から2回目の注入サイクルが始まっています。如水会から頂いた当初の200万円は優先的に使わせて頂き、アカマツ基金創設以来累計で526万円にのぼる金額を薬剤注入費並びにアカマツ補植費用として支出しています。

現存するアカマツを継続的に樹幹注入することによって守るとともに、失われたアカマツを新たな苗木を植える事によって復活させる必要があります。マツ枯れ病を引き起こす「マツノザイセンチュウ」への抵抗力のある品種改良された「抵抗性アカマツ」の苗木も現在手に入るようになってきており、今後は大学とよく相談して、適地に抵抗性アカマツの苗木を補植するように検討していきます。

アカマツの保全・再生事業は終わりなき事業であり、アカマツ基金の募金も継続していきますので引き続き宜しくお願い申し上げます。

アカマツ基金の現状

年度	アカマツの保全・再生事業				負担者			アカマツ基金寄付金			備考	
	樹幹注入明細				大学	植樹会	アカマツ基金	入金額合計		引出し合計額		
	実施月	本数	アンプル数	金額				新植・移植費用	一般寄付分			如水会寄付分
2016年度実施	12	59	566	1,497,636								
	2	34	355	939,330								
	3	6	55	145,530								
小計		99	976	2,582,496		1,252,496	1,330,000	0	0	0	0	
2017年度実施	2	34	371	981,666		481,666	500,000		0	2,000,000	0	アカマツ基金創設
	3	67	585	1,547,910		0	0	1,547,910			1,547,910	樹幹注入費：如水会寄付金から充当
小計		101	956	2,529,576		481,666	500,000	1,547,910	0	2,000,000	1,547,910	
2018年度実施	2	46	492	1,201,284		501,284	200,000	500,000	3,369,000	0	500,000	樹幹注入費
	3							181,440			181,440	アカマツ新植(10本)と移植(3本)の費用
2019年度実施	3	37	381	1,026,795		520,135	0	506,680	2,285,300	0	506,680	樹幹注入費
	12							79,200			79,200	定例作業200回記念アカマツ植樹費用
2020年度実施	2	42	438	1,180,410		614,460	0	565,950	530,000	0	452,090	樹幹注入費：如水会寄付金から充当
											113,860	樹幹注入費：一般寄付金から充当
2021年度実施	1	39	411	1,107,645		533,610	0	574,035	1,137,000	0	574,035	樹幹注入費
2022年度実施	1	51	507	1,366,365		668,360		698,005	410,000		698,005	樹幹注入費
2023年度実施	2	54	464	1,250,480		636,020		614,460	816,000		614,460	樹幹注入費
総合計		469	4,625	12,245,051		5,208,031	2,030,000	5,267,660	8,547,300	2,000,000	5,267,660	
									基金累計		10,547,300	
									基金残高		5,279,640	



Let's Green & Clean
一橋植樹会